

2012 年度活動報告

I 組織・運営

1. 定例総会

第 39 回

日 時：2012 年 5 月 26 日(土)13 時半～14 時半

場 所：HRC ビル 5 階ホール

出席者：70 表決状提出：154 計 224

*会員総数（個人会員 331、団体会員 100 計 431）の過半数出席

議 案：2011 年度活動報告／決算報告

総会記念企画

日 時：2012 年 5 月 26 日(土)14 時 45 分～17 時

場 所：HRC ビル 5 階ホール

内 容：「子どもとともに楽しく考えよう、原発事故問題の話」

ゲストスピーカー：おしどり（芸人・記者）

参加者：62 名

第 40 回

日 時：2013 年 3 月 24 日(土)10 時半～12 時

場 所：HRC ビル 5 階ホール

出席者：44 表決状提出：171 計 215

*会員総数（個人会員 329、団体会員 96 計 425）の過半数出席

議 案：2013 年度活動計画（案）／2013 年度予算（案）／理事辞任に伴う後任者の選任（案）

2. 会員の拡大と広報の充実

(1) 会員の現況

・2012 年 3 月末

個人会員 337／団体会員 99／賛助会員 194

↓

・2013 年 3 月末

個人会員 311／団体会員 91／賛助会員 189

(2) 会員の拡大と広報の充実

- ① ホームページおよびブログの更新に努めた。
- ② 現会員に継続していただくため、講座・学習会等の案内、事務局情報を随時、発信した。
- ③ センターの相談事業（チャイルドライン O S A K A、ファミリー子育て何でもダイヤル、子ども家庭相談室）を知ってもらうべく、随時カード・チラシを配布して広報に努めた。

(3) 若者プロジェクト **新**

- ① 企画会議の開催（全12回）
センターの会員に学生、若者層を増やすための企画を検討。若者が集まる「居場所」をつくり、そこでセンターとのつながりを紡いでいくことを決めた。
- ② カフェ取材（5か所）
若者が集まり、「居心地」のよい空間とはどのような空間なのか、コミュニティカフェなどを訪問し、自分たちがつくる「居場所」づくりを模索した。
- ③ 「大阪ママええやん♡」への参加。
子どものあそび場を企画。子どもの居心地のよい空間づくりにこだわった。

3. 企画委員会

各部門から企画委員を委嘱し、センターの事業企画・運営について議論した。

《2012年度企画委員》

石打澄枝（大阪府子ども家庭サポーター協議会）、亀井郁子（チャイルドラインOSAKA）、宇治野崇弘（ユアボイス）、伊藤美樹（ファミリー子育て何でもダイヤル）、奥村仁美（保育部ももぐみ）、小谷訓子（理事）、山内朋子・辻本みゆき（つどいの広場）、岩本信江（共同子育て連絡会）、南田安紀子（子どもとあそびのネットワーク）、宮川要二（大阪市子ども相談センター不登校児童通所事業）
田中文字子・堀正嗣・山下裕子・国松祐子・山崎秀子（事務局）

第1回：2012年6月18日（月）

- ・ 2012年度企画委員紹介
- ・ 各部門・事務局より2012年度の事業について
- ・ 緊急ゼミナール「大阪市学校活性化条例（案）の問題点」について

第2回：2012年8月6日（月）

- ・ 各部門・事務局より現在の活動について
- ・ センター広報について

第3回：2012年10月15日（月）

- ・ 各部門・事務局より現在の活動について

第4回：2012年12月17日（月）

- ・ 各部門・事務局より現在の活動について

第5回：2013年2月25日（月）

- ・ 各部門・事務局より現在の活動について
- ・ 第40回総会について

第6回：2013年4月15日（月）

- ・ 2012年度活動報告
- ・ 第41回総会について
- ・ 2013年度「部門連絡会」について

4. 「はらっぱ基金」

子ども情報研究センターの活動のさらなる充実を目指し、子ども家庭の権利擁護活動を財政面で支えていただきたいと、2007年に「はらっぱ基金」を創設した。今年度もご協力いただき、現在の基金総額は下記のとおり。

基金総額 5,658,574円 (2013年3月末現在)

Ⅱ 事業

1. 子どもの人権、人権保育・教育等に関する研究、研修事業

(1) テーマ別研究部会

「障害児の生活と共育を考える」「子どものことばと生活」「からだ育て」「子ども人権」「子育て連携」の5つのテーマ別に会員の自主ゼミナールとして運営した。

【障害児の生活と共育を考える】

部会発の連続講座を開催。

(開催趣旨) 子ども一人ひとりがたくさんの人たちと出会い、地域で見守られ育つ社会をめざして。核家族化、地域社会とのつながりが少なくなっている今、ともに学ぶ。

① 日 時：10月19日(金)「医療・療育」の現場で出会った子どもたち

講 師：船戸 正久さん(大阪発達総合療育センター 重症心身障害児施設フェニックス園長)

② 日 時：11月9日(金)福祉・教育・地域の連携で、子どもの声を聴く取り組み

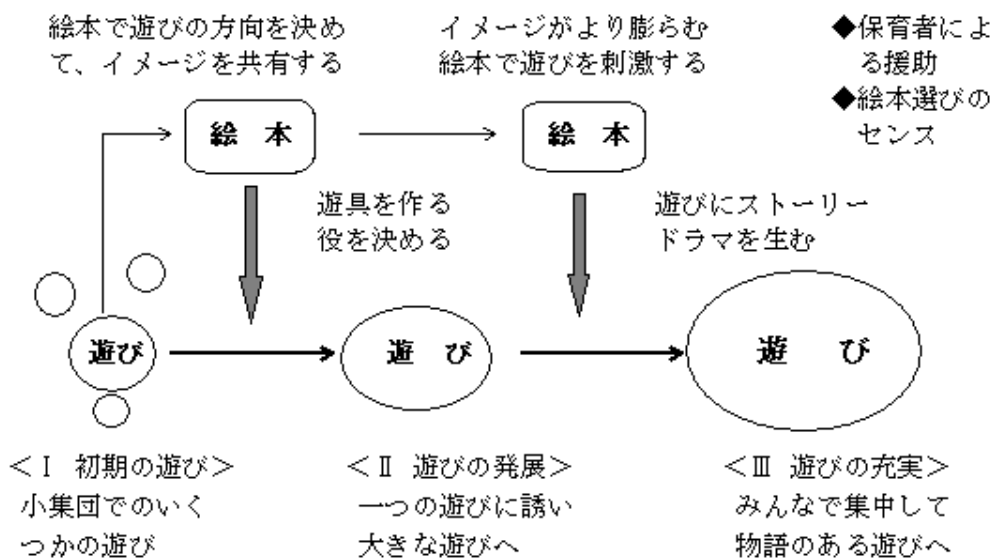
講 師：鳥海 直美さん(NPO 法人地域生活サポートネットほうふ副代表/四天王寺大学教員)

【子どものことばと生活】

大きく二つのテーマに分けられる。一つは「絵本と遊び」であり、二つには民主党内閣の「新システム」について話しあってきた。

「絵本と遊び」は、長岡京市深田保育所を中心にした絵本の取り組みの中から、絵本指導のあり方をさまざまに追求してきた。①絵本の読み聞かせ(読み語り)の実践、②保育実践の中での絵本の利用・活用の仕方、③絵本と生活認識、④絵本から遊びへの展開、などを議論してきた。その中でも、遊びへの展開における絵本の活用を重要な討議課題とした。

次のような実践パターンを定式化した。この図式をもとに、実践を整理してきた。



二つ目のテーマは、「新システム」について。政策の基本と変化について追求した。基本は、保育所と幼稚園とを一体化した「総合こども園」の提言である。厚生労働省と文部科学省を切り離して、新たに「子ども家庭省」を立て、財源も新たに一本化して市町村の管轄とし、市立も公立も一元的に統括するというものである。

民主党の惨敗、自民党の圧勝の中で、自民・公明政権が「新システム」をどう進めるかは不明確なままで、各市町村は混乱している。しかも、自民党政権は、3～5歳を軸に幼児教育の無償化の方向を打ち出してきている。こんな状況の中、同和保育・解放保育の中で勝ち取ってきた「子どもの育つ権利」がどう保障されるのか。また、保護者の子育てがどれだけ支援されるか。そんな議論を重ねてきた。(早川 勝廣)

【からだ育て (A)】

野口・つるまき体操を源にした「ふれあいあそび」、小泉文夫—民族音楽『子どもの遊ぶうた』の応用編としてのうたあそびを交流してきた。

今年度もはじめに、うたあそび『おせんべやいて』のおせんべのところを、いろいろなたべものに変えてあそんでみた経験などが交流され、子どもの生活土台とあそびの関係が理解できた。

次に、『イメージと人間』(藤岡喜愛/NHK出版)から、イメージや「気」のことを学んだ。パントマイムと野口・つるまき体操との共通性、子どものまねっこあそびとの関係なども話題にした。さらに、以前鈴木祥蔵先生がよく言っておられた「融即の関係」とかかわって、子どもの「バイバイ」動作、子どもと「鏡像」のこと等も『私と他者と語りの世界』(浜田寿美男/ミネルヴァ書房)を参考に話しあった。

実技をもっと多くとの要望があった。

【からだ育て (B)】

からだほぐしあそびと鉄棒、手あそび・絵本とあそび、とびばこあそびをした。

鉄棒あそび…一人ひとり布きれをもって鉄棒みがきから。

さわって、ほっぺとふれて、てつ坊やとなかよしに。

棒を使って、げっ、げっ(あっ)とおどろくさかあがり。

(くわしく知りたい方は部会Bへ)

2歳児と手を使ってのあそびをたくさん。部会Aでの『おせんべやいて』なども。絵本『ももこもこ』で表現あそびを。とびばこあそび—ケン・ケン・パーからのふみきり。ロールマットのとびこしを経験して、跳び箱—とびこしへ。

(天野忠雄)

【子ども人権】

2012年度も、子どもの人権や人権教育関係の文献を読み込むという、読書会中心の運営を行った。部会を開いた日とテーマ、報告者は、次のとおりである。なかなか日程調整がうまくいかず、2012年度は5回の開催に終わった。

開催日	内容	報告者
4月28日 (土)	喜多明人ほか編『[逐条解説]子どもの権利条約』(日本評論社)を読む(第8回・最終)―教育に関わる条文を中心に―	住友 剛
7月1日 (日)	平沢安政編著『人権教育と市民力』(解放出版社)第1章・第2章を中心に	笹倉千佳弘 笹倉健介
9月9日 (日)	同上、第3章～第5章を中心に	井上寿美 渡邊充佳 住友 剛
11月24日 (土)	同上、第6章・第7章を中心に	井上寿美 齋藤尚志
1月5日 (土)	同上、第8章～第10章を中心に	笹倉千佳弘 齋藤尚志 渡邊充佳

「子どもの人権や人権教育関係の文献を読み込む」というスタイルでこの部会を運営しはじめてもう何年もたつのだが、私としては、「文献を読み込む」タイプの地道な取り組みの重要性をあらためて、この場をお借りして当センターの関係者に伝えておきたい。

たとえば2007年頃に子ども人権部会で読んでいた『反「人権」宣言』(ちくま新書)の著者・八木秀次氏が、現在、安倍政権の教育再生実行会議のメンバーに入っている。このような状況に対して批判的に対峙していくために、たとえば2011年度から継続して読んできた『[逐条解説]子どもの権利条約』や、2012年度に読んだ『人権教育と市民力』の主張がどこまで通用するのか。そこが今、問われているし、同時にこのことが、子どもの人権や人権教育の現状をかなりの確に示しているとも考えられるのである。私たちが今の子どもの人権、あるいは人権教育の置かれている現状を打開していくためにも、私たちの「読む・書く力」を高めていく作業が今後、ますます重要になるのではないかな。

ところで、2011年度同様、2012年度も毎回の部会には報告者のほか5～6人が参加しているが、顔ぶれがかなり固定してきた感がある。今後、新しい常連メンバーを増やしていくことが必要だという面もあるのだが、他方で子どもの人権や人権教育関係の文献を読み込む作業を地道に続ける上では、少人数のほうが運営しやすいという面もある。このあたりの兼ね合いが難しいところである。

なお、主に部会の開催案内が中心であるが、子ども人権部会の活動状況については、部会ブログにて発信しているので、参照していただきたい。(http://kodomojink.exblog.jp/)
(住友 剛)

【子育て連携】

子育て連携部会では、2009年度から3年間にわたって、「学校園所・地域で子どもの育ちを支える一部落解放子ども会・青少年会館の実践から学ぶ」というテーマで、部落解放子ども会の活動に関わって来られた方々をゲストスピーカーとして学習会に取り組んできた。2012年度からは、これまでの学習会で得られた知見をまとめる作業にとりかかった。具体的な開催日・内容・開催場所は下記のとおり。

子どもにとって、家庭でも学校でもない居場所があること、また子どもに対して、親で

も教師でもないおとながかかわることの大切さを発信していきたいと考えている。

開催日	内 容	開催場所
7月1日(日)	今後の部会の持ち方について議論する	市民交流センターよどがわ
9月9日(日)	学習会で得られた知見の発信方法について議論する	市民交流センターよどがわ
2月23日(土) ～24日(日)	参加者全員がレジュメを作成して報告し議論する	ユニトピアささやま(合宿)

(井上寿美)

(2) 第34回人権保育教育連続講座

- ① 日 時：日程別表の通り、時間はいずれも14時～16時半
- ② 会 場：HRCビル 5階ホール
- ③ テーマ：子どもの人権を大切にす保育を、ともに
- ④ 参加者：前期289名、後期290名昨年度から20名ほど増えた。
1講ごとの参加人数は90～130名程度
- ⑤ 講評：毎回、参加者どうしの交流の時間を設けると、「他園所の話聞くいい機会になった」、「この時間も楽しみです」と好評であった。前期は主に理論、後期は主に実践報告という流れも定着した。

【前期プログラム】

	日程	テーマ	講 師
1	5/29 (火)	乳児のクラス運営 クラス集団としてのねらいや活動とは？	堀井二実(園田学園女子短期大学)
2	6/13 (水)	笑顔いっぱい うたあそび 子どもとともにつくる保育	谷畑恵子(リズムと表現の会)
3	6/21 (木)	「子どもの権利」いっしょにお喋り 保護者と座談会	桜井智恵子(大阪大谷大学)
4	6/29 (金)	「こども園」ってなに？ 「子ども・子育て新システム」への期待と課題	普光院亜紀(保育園を考える親の会)
5	7/11 (水)	子育て温泉 現場の取り組みと仲間とのかかわり	奥村仁美 南田安紀子(子ども情報研究センター保育部ももぐみ&共同子育て連絡会)

【後期プログラム】

	日程	テーマ	講 師
1	10/10 (水)	子どもとともに 自然に生きる	実践報告：茨木市立鮎川保育所 コーディネーター：森山康浩 (子ども情報研究センター)

2	10/17 (水)	もっともっと 絵本を楽しもう！ えほんのひろばでひろば読み	加藤啓子（絵本あれこれ研究家）
3	10/31 (水)	知りあう・つながる・響きあう 「人」は「人」とともに生きてゆく	実践報告：豊中市立庄内西保育所 コーディネーター：棚田純子 (ちゃいるどネット大阪)
4	11/6 (火)	保護者とのコミュニケーション こんなとき、どうする？	実践報告：参加者のみなさん コーディネーター：田中文子 (子ども情報研究センター)
5	11/13 (火)	乳児保育をともに 子どもの今・未来そして地域につながる実践	実践報告：社会福祉法人大阪キリスト教 社会館めぐみ保育園 コーディネーター：堀井二実 (園田学園女子大学短期大学部)

(3) 第33回全国保育集会（自治労主催／子ども情報研究センター協賛）

2012年8月3日（金）～5日（日）高知県立県民文化ホールにて開催

- 1日目：全体集会 「現場から創る子ども・子育て支援」に係るパネルディスカッション
2日目：「共に育ちあう保育」「保護者対応」ほか分科会、討論
3日目：「障害児対応・社会的養護」ほか分科会、ステップアップ講座、ワークショップ

(4) 自然教室

第5回自然観察会「ホエールウォッチング」

日時：2012年4月21日（土）～22日（日） 参加者：おとな14名、子ども2名

行程：太地町立くじらの博物館見学～夕食ミーティング「命をつなぐ、食べること」

(5) 子ども支援学研究会（子どもオンブズパーソン研究会、子どもの権利条約総合研究所との共催）

① 子ども支援のための教育と福祉の連携

— 「子どもにやさしいまち」をめざす権利基盤アプローチの視点から—

日時：2012年6月23日（土）13時半～17時

会場：HRCビル 4階

内容：報告①：「大阪府・大阪市の児童福祉・教育施策を子どもの権利の視点から検証する」 住友剛さん(京都精華大学)

報告②：「ひとり親家庭への調査から見えてきた子どもの権利の課題～日本は教育と福祉をどのように取り組んできたのか～」 神原文子さん(神戸学院大学)

報告③：「自治体における教育と福祉の連携 — 最近の動向から —」 荒牧重人さん(山梨学院大学法科大学院)

参加者：41名

② 「いじめ」問題の今日的状況とこれからの方途

—権利基盤アプローチに基づく「子どもにやさしいまち」の視点から—

日 時：2012年12月15日(土)13時半～17時

会 場：HRCビル 5階ホール

内 容：基 調：『いじめ』問題をめぐる状況とこれからの方途 喜多明人さん（早稲田大学/子どもの権利条約総合研究所代表）

報告①：「学校現場の思いと実践」藤田恵美さん（元中学校教頭）

報告②：『第三者機関』の意味と機能 吉永省三さん（千里金蘭大学）

討 議：「参加者による意見交換等」

参加者：66名

(6) 企画委員会発ゼミナール

① 「西区二児放置死裁判を考える」裁判傍聴の報告と質疑

日 程：2012年6月5日（火）

参加者：21名

② 「大阪市西区二児放置死事件が残したことばにどう答えるか」

日 程：2012年12月11日（火）

参加者：18名

(7) 地域子どもアドボケイトネットワーク構築プロジェクト

① プロジェクト会議の開催

2011年11月に開催した、「子どもの声がおとなに届くために私たちにできること——イギリスの子どもアドボカシーから学ぶ」を受けて、センター関係の研究者・実践者とともに、「日本における子どもアドボカシー事例演習」等を収録した本の出版に向けて、プロジェクト会議を開催。

② 本の出版

『子どもアドボカシー実践講座～福祉・教育・司法の場で子どもの声を支援するために』解放出版社刊、B5判200ページ、部数1,500部、2,000円

③ 実践講座「学校・福祉現場で一人ひとりの子どもの声をどう支援するか—子どもアドボカシー実践講座—」の開講

日 程：2013年3月24日（日）

内 容：『子どもアドボカシー実践講座』のめざすもの

堀正嗣さん（熊本学園大学教員、子ども情報研究センター副所長）

独立アドボケイト事例演習①学校

今橋千晶さん、奥村仁美さん（子ども情報研究センター「子ども家庭相談室」）

独立アドボケイト事例演習②障害児支援

鳥海直美さん（四天王寺大学教員）

独立アドボケイト事例演習③児童養護施設

中村みどりさん（CVV [社会的養護の当事者エンパワメントチーム]）

栄留里美さん（日本学術振興会特別研究員）

全体討論、まとめ

堀正嗣さん（熊本学園大学教員、子ども情報研究センター副所長）

参加者：61名

2. 編集・出版、情報提供事業

(1) 機関誌『はらっぱ』（月刊）の編集・発行

編集委員：田中文子（編集長）、大森順子、国松祐子、近藤亜矢子、社納葉子、
白川季句子、二葉智代、堀井二実、増山育子、松尾有希子

① コーナー構成

表紙／もくじ／特集／グラビア／ティーンズメッセージ from はらっぱ／はらっぱを吹く風／大切な命を大切に生きよう（安積遊歩さん連載）、考えたことー2011.3.11 から（青木悦さん連載）（隔月）／保育・ゆめ・未来／子育ての「これってどうなん？」／からだ・ことば・リズム／校長日誌／働く私たちの、“仕事のゲンバ”／子ども時評／ともに生きる、保育教育の現場をホンネで語る・・・王さまの耳はロバの耳（隔月）／奮闘なう vs. 奇妙で鬱陶しいこの社会、子どもが答えるおとなの悩み（隔月）／シネマな視点／だから、これが好き／大きくなったら、何になりたい？／親と子の自然教室、はは日記（隔月）／センター発／LETTERS／自由空間☆きらり／つどいの広場／〇月の予定／ニュース切り抜き帳／情報／ピックアップ／事務局日誌

② 特集テーマ

4月号：これからの保育を語ろう！ いま、新たな保育ビジョンを
5月号：子どもの命が危ない！ 保育所での事故増加をめぐって
6月号：子どもの思い、おとなの思い 保護者とともに「子どもの権利」を考える
7月号：見てわかる、保育所最低基準
8月号：震災後をともに生きるために① 自主避難、母子避難という選択と現実
9月号：わが町にしなり子育てネットの活動から学ぶ 地域と子どもを結ぶ場を守ろう
10月号：つどいの広場の参加者にきく 保育所、幼稚園、どう考えてる？
11月号：家庭的保育の活用が望まれるなかで 保育ママ～今と未来を考える
12月号：震災後をともに生きるために② 支援する／されるの「間」を考える
1.2月号：ひとつの選択肢として考えてみる 里親という家族のかたち
3月号：声とキモチをつないでいく 「ユア・ボイス」を振り返る

③ 「ティーンズメッセージ from はらっぱ」

子ども編集スタッフが企画、取材、執筆を行った。

(2) 『からだ・ことば・リズム～子どもの人権を大切に 豊かな表現を育てよう』編集発行
2013年2月 第3版発行（300部）／600円（税込）

(3) ホームページ、ブログ

ホームページおよびブログの更新に努め、情報発信を行った。

2012年度のホームページ訪問者数は77933名。（2011年度は62166名。15767名の増加）

ホームページ <http://www.kojoken.jp>
ブログ <http://www.hnpo.comsapo.net/kojoken/>
はらっぱブログ <http://ameblo.jp/harappa307/>

3. 地域子育て支援ネットワーク事業

(1) ファミリー子育て何でもダイヤル（連合大阪からの事業委託）

開設時間 毎週水曜 10時～20時 TEL06-4394-8754

- ① アクセス件数（電話件数）182件 総通話時間 102時間24分
- ② スタッフ 27名体制
- ③ スタッフミーティング
日 程：10回（4月・5月・6月・8月・9月・10月・11月・1月・2月・3月）
内 容：15周年記念企画についての話し合い、開設時間・体制・広報などについて検討、
事務連絡、ケース検討、スタッフ交流会
- ④ 15周年記念講演 「聴く」こと
講 師：鷺田清一さん（大谷大学教授）
日 時：2012年10月28日（日）13時30分～16時30分
場 所：HRCビル5階ホール
参加者：81名
- ⑤ 報告書の作成
1年間の活動の成果をまとめ、子育て家庭の現状と課題を広く社会に発信していくために
年次報告書を作成。
- ⑥ 広報
 - ・読売新聞 10月17日朝刊
 - ・ダイヤルマスコット「ほっとちゃん」（手作り人形）を作成し、カンパを募る。
 - ・子育て講座などの受講者や、各団体などにカード配布。
 - ・「はっぴいポケットみ・な・と」通信や「みなとキッズ」などに掲載。

(2) 共同子育て連絡会

地域子育て支援の実践者が集まり、議論を深め、その成果を発信した。

- ① 定例会（月1回）
- ② 「子育て温泉」を活用したワークの検討、実践
- ③ 第34回人権保育教育連続講座「子育て温泉～現場の取り組みと仲間とのかかわり～」
を担当
- ④ 大阪府社会福祉協議会「子育て支援者のための実践研究ゼミ」の講師を担当
内 容：大阪府内の保育園の子育て支援担当者を対象にした通年の連続8回（1回3時
間）講座。年間テーマを「“子どもの権利条約”の視点から、保護者支援につ
いて考える」と掲げ、共同子育て連絡会のメンバーがチームで担当。
参 加：保育園15園
- ⑤ 地域子育て支援、実践交流会

(3) 保育部ももぐみ

ももぐみだより 13号の「子どもの権利条約乳幼児期編」をもとに、あかちゃんからしっかり声を聴くことを大切に、「子どもの人権を大切にする保育」や「講座つき保育」の実践をした。

① 一時保育

2012年度は、有償で依頼があったもの 168 件、その他ボランティアや保育応援を含むと 170 件以上もの一時保育に出向く。63 名の保育担い手の登録があり、それぞれの担い手の状況と、保育の子どもの年齢や特徴を考慮し、1 件ずつ、丁寧に、保育のコーディネートをした。今年度は、38 名が担い手として活動。

② 通信ももぐみだより 13号、14号の発行（各 1000 部）

子ども講座の参加者のひとりとして尊重する「講座つき保育」を特集。

ももぐみだより 13号の「子どもの権利条約乳幼児期編」をもとに、あかちゃんからしっかり声を聴くことを大切に、ももぐみの保育を実践した。

(4) 子どもとあそびのネットワーク

自主交流会やグループ訪問を通して、子どもの自主的なあそびを大切にする人とのつながりが広がった。2012年度登録：20 グループ

① 交流会

- ・タイのムアイさんたちと 6/1 (HRC ビル 402 室) 8 名
- ・ちょこっとあそび 6/25 6/28 11/27 11/30 (HRC ビル ロビー) 45 名
- ・みなと de 子育て温泉 1/25 2/22 (HRC ビル 402 室) 14 名

② グループ訪問『おじゃまんぼう』各回 3～8 名

- ・子育てパーク「はらっぱごっこ」7/19
- ・美原まちかど「えんにちごっこ」9/21
- ・サンタッタひろば「ストローコンサート&あそびのひろば」1/27
- ・第2回「にしあわじアートフェスティバル」3/23
- ・子どもがつくる 子どものまち「ミニ☆大阪」3/30.31

③ 定例会 4/27 6/1 7/19 10/13 1/25 3/22 各回 4～6 名

④ 依頼講座：3 件

ブログの更新随時 <http://asonet.exblog.jp>

(5) 大阪府子ども家庭サポーター協議会（サポーターネット）

子ども支援のための実践講座」を開講

※「平成 24 年度大阪市ボランティア活動振興基金」助成事業

日		テーマ・内容	講師・進行役
7/7 (土)	①	これまでの自分の歩みを紹介しあおう 「私のキャリアレインボー」	進行：大森順子 (しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西)
7/21 (土)	②	子どもの権利条約から学ぼう	講師：橋本暢子 (チャイルドライン OSAKA)
8/11 (土)	③	「こどもげんきまつり」開催までの道のり ～活動が続けるうえの困難と乗り越え方	進行：山崎秀子 (子ども情報研究センター事務局) / 中根 博 (チャイルドラインひがしおおさか)
8/25 (土)	④	実践！「こどもげんきまつり」を体験しよう	子どももおとなも、あそんで、休んで、カレーを食べて楽しもう！
9/29 (土)	⑤	資金を作るために～助成金を学ぼう / これからの活動について語りあおう	進行：石打澄枝 (子ども家庭サポーターの会「たんぼぼ組」) / 九門りり子 (交野市子ども家庭サポーターの会「ポラリス」)

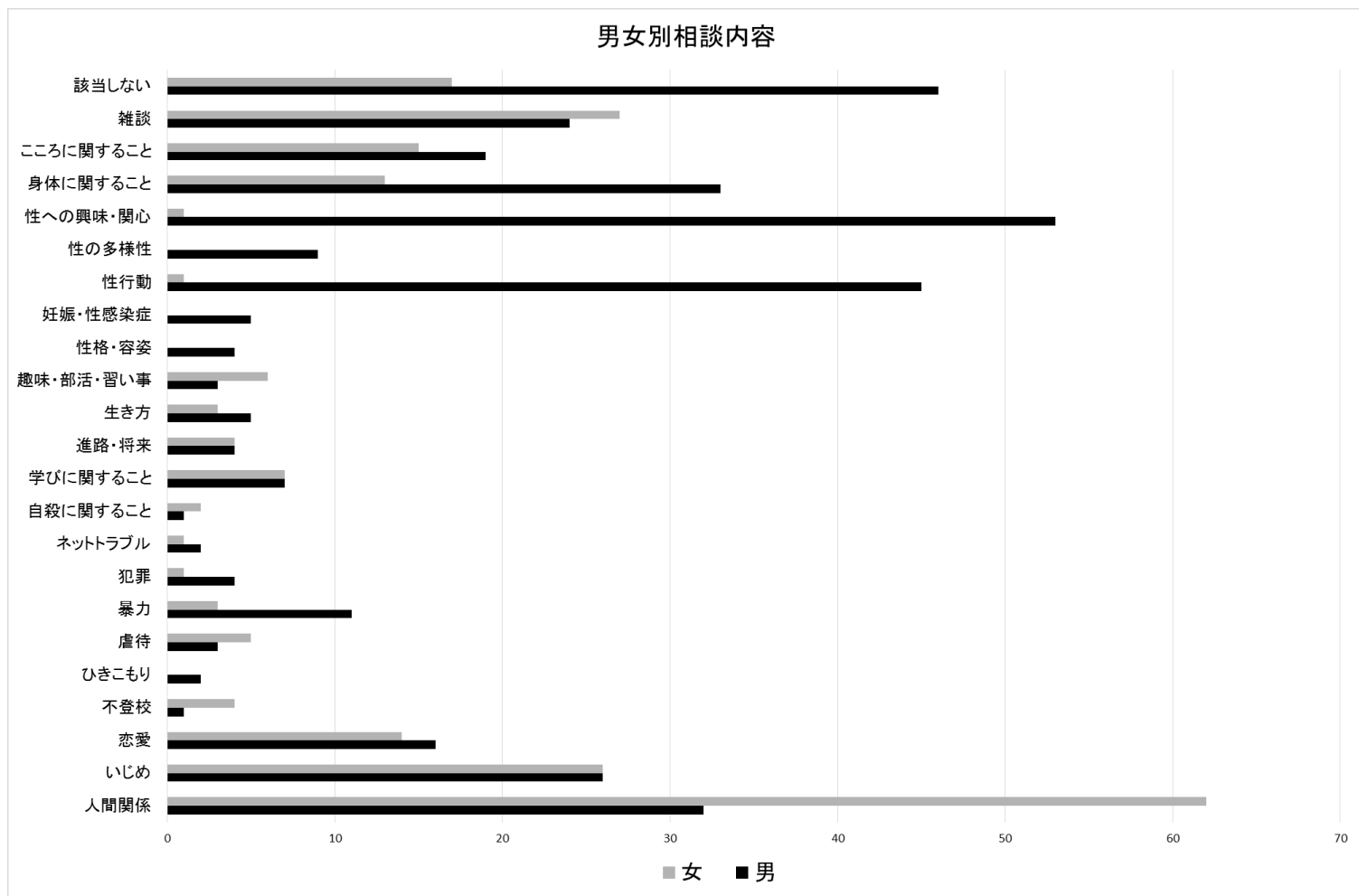
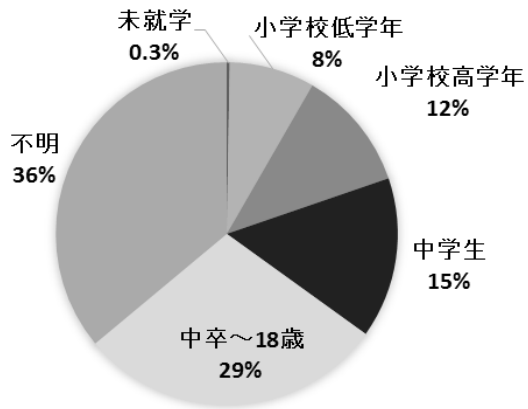
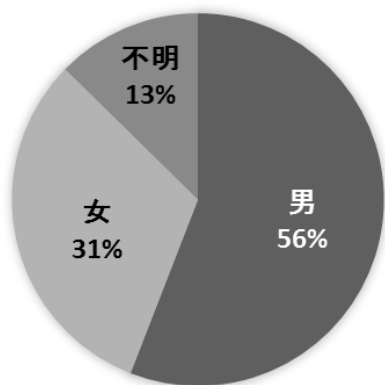
4. 子どもエンパワメント事業

(1) チャイルドライン OSAKA

開設時間 毎週金曜 16時～21時 TEL0120-99-7777

- ① アクセス件数 (電話件数) 1195 件 総通話時間 207 時間 32 分
- ② スタッフ 37 名
- ③ 会議：全スタッフ会議 毎月 2 回 (金・土曜日) 開催。
広報チーム会議、研修チーム会議、運営チーム会議を不定期開催。
- ④ 広報
 - ・大阪府内の私立小中高生 (約 13 万人) に、カード配布ができるよう準備をすすめた。
(私立学校への配布は初めての試み。2013 年度中を予定。)
- ⑤ 研修
 - ・「子どもの声を聴けるおとな」養成講座 (10/27、11/3、11/10、11/17、12/1)
チャイルドラインひがしおおさかと合同で開催。
 - ・「子どもの声を聴けるおとな」実践講座 (12/15、1/19、1/26)
- ⑥ 他団体との連携
 - ・チャイルドライン支援センター総会 (6/2)
 - ・チャイルドライン大阪連絡会 (6/15、9/28、12/18、3/11)
 - ・近畿北陸エリア合同会議、映画「隣る人」上映会 (10/8)
 - ・チャイルドライン全国研修 in 東京 (10/20、21)
 - ・チャイルドライン全国運営者会議 (12/16)

電話をかけてきた子どもの男女比 電話をかけてきた子どもの年齢比



(2) 子ども家庭相談室

開設時間 毎週月・火・木 10時～20時 TEL06-4394-8754

面接は木曜のみ（面接予約 TEL06-4708-7087）

- ① 相談件数：電話 541 件、面接 82 件
- ② 相談員 6 名
- ③ 「被害者救済システム」連携支援機関（大阪府教育委員会からの業務委託）※別掲申立 1 件
- ④ 年次報告書の作成

(3) ユアボイス 2012 年度で事業終了

- ① 番組更新日時：隔週土曜日の 18 時前後に更新
- ② パーソナリティ：3 名（ひめらっぱ・ねっとまん・ディスク剣士タカマル）
- ③ HP 版番組来訪者数：1 番組につき、約 24 名（2 か月に一度の調査用カウンターの数により算定）
- ④ ブログ版番組来訪者数：1 番組につき、約 62 名（最小 31 名 最大 166 名）（ブログ版のアクセス解析により算定）
- ⑤ 古い HP 版番組の一部をブログ版に転載
- ⑥ 電話版番組記録のまとめ

※ブログ版の最大人数および平均人数の減少は、「たまたまキーワードで引っかかった人」が大きく減少しただけと思われる。ここ数年、更新直後の数日間は全時間帯であまり増減がなく安定しており、番組自体を目的として来て下さっている方は大きく変化していない模様。相互リンク依頼が 1 件、番組に直接関与しないコメントが 3 件（迷惑投稿は除く）。番組内で使用できる閲覧者からのボイスメールはなかった。2012 年度で、ユアボイス活動は終了するが、過去番組の整理や、なにかしらのコメント投稿があればパーソナリティ単位での返事（ブログ版に限る）はしばらくの間続ける予定。これまでのあゆみは、『はらっぱ』3 月号の特集に掲載。

ホームページ版 <http://www.kojoken.jp/yourvoice/topyourvoice.htm>

ブログ版 <http://yourvoiceblog.seesaa.net/>

(4) ティーンズメッセージ from はらっぱ

子ども編集スタッフが企画、取材、執筆を行った。今年度は、人と人のつながりをたどり、芸能人へのインタビューが実現。また、子ども人権連「子どもの権利条約具体化のための実践」の助成金申請に、子ども編集部として挑戦し、資金を獲得。「子どもの権利条約フォーラム 2012in あいち」へ宿泊での参加を実現。

(5) 「この夏きみの声で楽校をつくろう！」

2010 年の夏に開催した子どもの楽校。子どもたちの「またやりたい」に応え、子ども夢基金を獲得。今回も「子どもの声で学校をつくったらどんな学校になるだろう」と、事前に募集した子ども実行委員による企画で、夏休みに子どもの楽校を開校。企画も参加も、講師依頼も当日の進行も、すべてを子どもの手でつくりあげた楽校。

① 子ども実行委員会

日 程：6/9・16・17、7/7・22・27・8/26

会 場：堺市立梅文化会館、西原公園など

子ども実行委員人数：20名

② 子どもがつくる楽校

日 程：8/28（土）29（日）

会 場：堺市立梅文化会館、西原公園

参加者：86名

その他：子どもが依頼し、堺市立泉北高校サイエンス部、ESS部のみなさん（高校生）たちも、講師として大勢参加。

内容：「おもしろカップケーキを100こつくろう！」「おわらい体育」「ポケモンとワンピースが好きな人あつまれ！」「おせっきょうをのがれよう！」「科学実験」「人生の兄さんふたたび～100さいの知恵～」「THE・さぼりまショー」など。全35授業。

5. 行政との協働

(1) 大阪市子ども家庭支援員研修事業（大阪市からの業務委託）

① 認定研修

日程：2012年10月26日～12月6日

修了者数：受講者6名のうち5名修了

プログラム

	日程	会場	テーマ	講師
1	10/26 (金)	大阪市立子 育ていろい ろ相談セン ター	開講式	大阪市子ども青少年局
			大阪市の児童虐待の現状と課題	岩田幸夫(大阪市子ども相談センター)
			児童虐待防止における市民の役割	小谷訓子(子・己育ち相談リーフ主宰)
2	11/9 (金)	HRCビル	現代子育て事情と支援のあり方 (1)～保育、つどいの広場の現場から	南田安紀子 (NPO法人あそびのお部屋シュッポッポ代表理事)
			現代子育て事情と支援のあり方 (2)～児童養護施設、保育所の現場から	側垣一也 (社会福祉法人 三光事業団 総合施設長)
3	11/16 (金)	HRCビル	乳幼児の育ちとあそび ～訪問先の子どもたちとの出会いを大切に	奥村仁美 (NPO法人 SAKAI 子育てトライアングル代表理事)
			虐待する親への支援 ～NPOの実践から	関口淑枝 (NPO法人子育て運動えん)

4	11/28 (水)	大阪市立子育ていろいろ相談センター	家庭訪問支援の実際 ～支援員さんから実際の活動についてきこう	大阪市子ども家庭支援員 3名
			支援の基本は「聴く」 ～演習	高崎幸子 (児童虐待防止協会)
5	12/6 (木)	大阪市立子育ていろいろ相談センター	これからの活動に向けて ～わたしたちのエンパワメント	山下裕子(子ども情報研究センター事務局長)
			修了式	大阪市こども青少年局

② 実践研修

対象：49名

会場：大阪市立子育ていろいろ相談センター

プログラム

日程	テーマと内容	講師
12/14 (金)	児童虐待の現状と課題 大阪市の児童虐待の現状と課題を理解する。 親支援のあり方の基本と具体的なスキルを学ぶ。	宮井研治 (大阪市こども相談センター)
1/17 (木)	元気になる会議～ホワイトボードケース会議 2012 ケースワークの手法を学び、訪問支援のスキルを学ぶ。	ちょんせいこ(人まちファシリテーション工房)
2/21 (木)	児童虐待の現状と課題～親の抱えるしんどさ 児童虐待の起きる社会的な背景を理解する。	藤本勝彦 (児童虐待防止協会)
3/8 (金)	児童虐待の現状と課題～子どもの抱えるしんどさ 児童養護施設の子どもの声から、子どもたちのおかれている現状を理解する。	石塚かおる (児童養護施設つばさ園施設長)

(2) 大阪市こども相談センター不登校通所事業「自由空間☆きらり」(大阪市からの業務委託)

○開設日：火・水・金・土曜日 11時～15時30分

○場 所：市民交流センターひらの

○登録人数：8名

○スタッフ：18名

○今年度も子どもたちと共にゆっくり過ごせた。

(3) 「被害者救済システム」(大阪府教育委員会からの業務委託)

大阪府内の市町村立学校及び府立学校で生起する、教職員による児童生徒に対するセクシュアル・ハラスメント、体罰及びいじめ等の被害を受けた児童生徒を救済し、事象の解決を行う「被害者救済システム」において、民間相談窓口として、「子ども家庭相談室」が

児童生徒及び保護者からの相談を受ける。

申立：1件

(4) 24時間電話相談（大阪府教育委員会からの業務委託）

- ① 開設日時：2012年4月1日～2013年3月31日の土日・祝休日の全日及び平日の17時30分～9時30分
- ② 電話番号：0570-078310（全国统一電話番号）
- ③ 相談件数：2155件
- ④ 総通話時間：193時間
- ⑤ 相談員数：21名

(5) 24時間メール相談（大阪府教育委員会からの業務委託） 新

大阪府教育センター「すこやか教育相談」におけるメール相談の夜間、休日の対応窓口として、子ども情報研究センターが業務委託を受けた。これによりいじめ、虐待など緊急を要する案件についても対応できた。

- ① 開設日時：2012年9月3日～2012年12月1日の土日・祝休日の全日及び平日の17時30分～9時30分
- ② 相談件数：11687件

(6) 大阪市つどいの広場事業（大阪市からの事業委託）

大阪市つどいの広場事業の委託を受け、市内2か所でつどいの広場を実施した。

港 区：はっぴいポケットみ・な・と（月・火・水・金・土10時～15時）

来所者数：おとな1843名、子ども2333名 実施日：248日

- ① 毎月の催しとして、ベビーマッサージ・ヨガ・わらべうた・おしゃべり会・親子あそび・手作りおもちゃなどを実施。
- ② 公園あそび…春は、近所の公園から一駅離れた八幡屋公園まで、行き先を変えて外遊びをする。野点・しゃぼん玉・なわとびあそび・旗作りなど
- ③ 毎週金曜日を「あかちゃん day&プレパパ・プレママ day」として実施。「あかちゃん day」は地域に浸透し、参加する親子が増えた。「プレパパ・プレママ day」は、広報が行き渡らないためか、参加者は少なかった。
- ④ 月1回の木曜日に「もくようポケット」を実施。つどいのスタッフが子どもを預かって一緒に遊ぶ。
- ⑤ つどいの広場研修や講座に参加し、スタッフとしてのあり方、ひろばの課題等を話し合い、自主研修をおこなった。

淀川区：育児&育自“この指と～まれ!”（月～金11時～16時）

来所者数：おとな1488名、子ども1520名 実施日：241日

- ① 初めてお子さんを生んだ方を対象に、月2回0歳児のみの「ベビータイム」という時間をつくった。その時間帯には多くの親子が来てくれたが、誰もが来て

も良いという平日になかなか移行していかなかった。

- ② 子育てがスムーズにいくように、マタニティ層にも「つどい」を知ってほしいと思い、「マタニティヨガ講座」を開催した。参加数は少なかったものの、出産後「つどい」につながってくれている人もできて、大変意義深いものだったと思う。「つどい」と言えば子どもと一緒にというイメージがあるので、マタニティ層への認知が課題である。
- ③ 行事的な取り組みはいろいろしているが、親向けの子育てに関する講座などの取り組みが少なかった。

(7) 大阪府児童虐待再発防止施設退所後訪問型支援事業（大阪府からの業務委託）**新**

内 容：児童虐待により、一定期間、子どもが施設等で生活することになったため、親子が離れて生活することを余儀なくされた家庭に対し、子どもの家庭復帰後、家庭訪問を行い、保護者と子どもの気持ちを受け止め、家族での生活を継続していくための支援を行った。

訪問支援員登録者：121名、大阪府子ども家庭サポーター養成講座（委託研修を当法人が受託）の修了生を対象

研 修：

(1) 5月15日（火）10：00～16：30 HRCビル5階ホール

	時間	内容	講師
1	10：00 ～12：30	「児童虐待再発防止施設退所後訪問型支援事業」とは	田中文字子 (子ども情報研究センター所長)
2	13：30 ～16：30	児童虐待と訪問支援の視点	佐藤拓代さん (大阪府立母子保健総合医療センター企画調査部長)

(2) 5月23日（水）10：00～16：00 HRCビル4階研修室

	時間	内容	講師
1	10：00 ～12：00	親子支援の実際①	木村百合さん (前吹田子ども家庭センター所長)
2	13：00 ～15：00	親子支援の実際②	
3	15：15 ～16：00	登録意思確認、個人情報取り扱いに関する確認等	子ども情報研究センター

ガイドラインの作成：

事業の枠組みや実際の支援において留意したポイントなどを具体的に示すことで、虐待の再発防止を目的とした効果的な訪問型支援について明らかにし、養育支援訪問事業など市町村において実施されている訪問型支援事業において活用されることを目的に「児童虐待再発防止のための施設等退所後訪問型支援ガイドライン」を作成。

6. その他

(1) 『自治労の保育運動』編集（自治労中央本部からの業務委託）

年2号編集。2000部発行。

第26号（2012年7月）：「子ども・子育て支援関連法」について

第27号（2012年11月）：新たな子ども・子育て制度の実施に向けて

(2) 国際交流事業

① アジア保育・教育交流推進実行委員会「大阪マイペンライ」に参加。監査役を務める。

② タイの教育支援を行う非営利団体「マレットファン」（2013年1月発足）との交流開始。

(3) 講師紹介事業

行政、社会福祉協議会、NPO等が主催する講座等に講師の紹介をした。講座テーマは、「子どもの人権」「子どもの発達と保護者支援」「子どもの遊びをキャッチ」「人権保育」「保護者とのコミュニケーション」「子どもとのコミュニケーション」「保育ボランティアとは」「子どもの遊び」「からだほぐし」等。

(4) 講座企画・運営委託事業

① 緊急ゼミナール「大阪市学校活性化条例（案）」の問題点

日 程：2012年6月28日（木）

発案者：桜井智恵子さん（子ども情報研究センター理事／大阪大谷大学教員）

参加者：28名

② 大阪ママええやん♡

“変える”に参加する10日間「大阪ええじゃないか」のイベントとして参加

日 程：2012年11月26日（月）

主 催：社団法人子ども情報研究センター／浪花の若ママネットワーク「shiny☆c」

後 援：大阪府/NHK大阪放送局

参加者：320名（子ども100名、おとな220名）

(5) 企業、他団体、地域と連携した子育て講座、イベント等の企画・開催

① 市民フォーラムおおさか2012

地域コミュニティの今後を考えるために、学びや気づきの機会づくりを目指し、大阪市内のNPO・市民団体が集まり、福祉、環境、健康、芸術など、幅広いジャンルのフォーラムを企画・運営。実行委員会ならびにイベントに参加し、他団体との交流や協働に務めた。

② 2012年度科研費シンポジウム「子どもを育てない親への支援 親が育てない子どもへの支援—妊婦健診未受診妊産婦の実態調査をふまえて—」

日 程：2012年9月22日（土）13時半～16時

場 所：HRCビル 5階ホール

内 容：1. 「妊婦健診未受診妊産婦の実態調査」報告

報告者：笹倉千佳弘さん（就実短期大学）

2. シンポジウム「子どもを育てない親への支援・親が育てない子どもへの支援」

シンポジスト：佐藤拓代さん（大阪府立母子保健総合医療センター）

津崎哲郎さん（花園大学）

社納葉子さん（フリーライター）

コーディネーター：井上寿美さん（関西福祉大学）

参加者：131名

広報：京阪神、岡山県の行政へ郵送（児童相談所、保健センター等の子ども家庭支援に関わる部局）

③ 「第3回ず〜っと続けてく被災障害者支援 11.23 東北⇔関西ポジティブ生活文化交流祭 in 長居公園」への参加

日程：2012年11月23日（休）

場所：長居公園

内容：ブース出展。子ども情報研究センターの広報活動、子どもの権利条約の啓発（「子どもの権利条約スタンプラリー」）をおこなった。

参加者：スタッフ5名

④ 「アイアイカフェ」

部落解放同盟大阪府連合会と部落解放同盟大阪府連合会女性部が、HRCビル近隣の住民の皆さんとともに、子どもや女性の人権が尊重される地域社会の実現をめざして設立した「つながりひろば実行委員会」に賛同し、アイアイカフェを共催。期間中、子どもや親が気軽に過ごせるようにおもちゃと絵本を置いたスペースをつくり、特別プログラムとして、「ちよこつとあそび」を子どもとあそびのネットワークのスタッフが開催。

日程：2012年6月25日（月）～30日（土）10時～16時

11月27日（火）・30日（金）10時～16時

場所：HRCビル

参加者：56名

⑤ 【震災復興応援イベント 3.11 from KANSAI～一歩、また一歩～】

日程：2013年3月10日（日）

場所：梅田スカイビル

内容：「避難者のつどい」に保育ボランティアとして参加

*大阪市ボランティア情報センターからの依頼

参加者：有志19名（当団体会員スタッフに呼びかけ）